

No.428

すいせいあらわ 大彗星 現る！？ アイソン彗星

この冬のはじめ、今年いちばんの天文現象^{げんしやう}が起こります。それは「アイソン彗星」。肉眼でも見られるほど明るくなると予想され、誰もがその姿を楽しめるかもしれません。これほど明るくなる彗星はめったにありませんから、見のがさないようにしましょう。

彗星とは、右の写真のように尾のある天体で、その姿から「ほうき星」とも言われます。星座をつくる普通の星たちや惑星^{わくせい}などとは違い、見られるのは数日から数ヶ月です。これは、彗星が普段は地球からとても遠いところにあり、たまたま地球や太陽のあたりまで近づいてきたものだけが見られるためです。今回のアイソン彗星も、11月29日（日本時間）に太陽に最も近づいたあと、12月27日頃に地球に最も近づき、その後はずっと遠くの宇宙に帰って行くと考えられています。



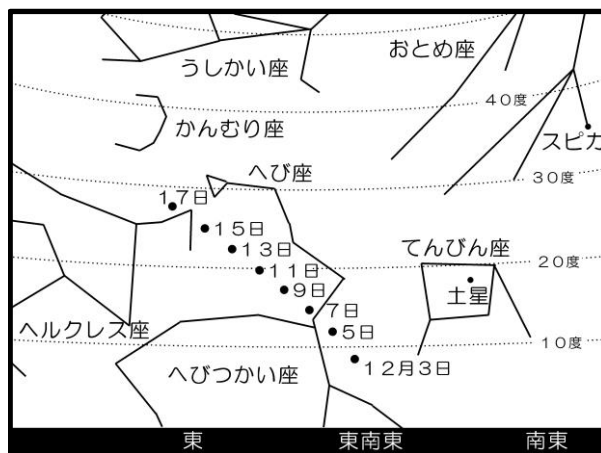
1997 年に見られたヘール・ボップ彗星

彗星とは、どんなもの？

彗星の正体は「汚れた雪だるま」にたとえられるように、氷にチリ（砂のようなもの）が混ざったものです。太陽から遠く離れたところではたいへん寒いため、氷とチリの混ざった塊^{かたまり}が天体としてたくさんあると考えられています。それらが太陽の近くまでやってくると、氷が融け、ガスやチリが吹き出し、太陽からの光や風にあおられて、長い尾を作ります。

12 月のはじめの朝、東の低空に注目

この彗星が最も見やすくなるのは、12 月のはじめです。朝、東の低い空に見られると予想されています。右の図は 12 月のはじめの、朝 6 時での彗星の中心の位置ですが、星座に対して毎日少しずつ動いていくことに注意が必要です。より早めの 5 時頃から起き、できれば東に街明かりや山などのない場所^{まち}で探してみましょう。（林忠史）



アイソン彗星の星座に対する位置（朝 6 時）

（横方向の点線は水平面からの角度（10 度単位）です。なおこれは、1 2 月 1 3 日の各星座に対するもので、東の空で星座は一週間あたり 5 度程度、早く昇ってきます。）